



### 市民公開講座

#### 「認知症を学ぼう～認知症治療とケアの基本～」を開催しました



11月7日、市民公開講座「認知症を学ぼう～認知症治療とケアの基本～」を開催し、定員の150名を超える多くの方が参加されました。

前半は、神経内科医で認知症専門医でもある富保和宏医師が、認知症の基礎知識、治療の最前線について、地域の方々に理解しやすい事例を用いてお話されました。認知症の治療は早期に医療機関を受診することがとても大切であり、ご家族の介護による負担などを軽減することもできるのでぜひ相談して頂きたいとのことでした。後半では、中村由喜子認知症看護認定看護師より、認知症の人の理解、看護・介護に役立つケアのポイント、コミュニケーション

のポイントなどについて講演しました。

認知症の人を看護、介護する上で私たちに出来ることは、認知症を正しく理解することと、認知症という病気に対応するのではなく、認知症と闘っている「人」を見ることが大切であるというを重点的にお話されました。

参加頂いた医療関係や一般の方々が講演の内容について熱心にメモをとる姿をから、認知症への関心の高さを感じました。

当院では、広く地域の皆様に認知症を正しくご理解頂くための活動を今後も展開してまいりたいと考えます。



### 地域連携合同カンファランスを開催しました



当院では『地域連携合同カンファランス※』と題した、地域の開業医との合同カンファランスを開催しています。普段書面や電話で間接的に連絡を取ることが多い医師間の連携を「顔の見える連携」にすることを目的とし、人と人との繋がりを作ることで医療連携がより円滑になってほしいという願いが込められています。

平成28年1月27日、今年度2回目となる地域連携合同カンファランスを開催し、連携医登録をいただいている14施設の先生方が診療のお忙しい中ご参加くださいました。

カンファランスでは、総合内科の泉医師と救急科の宮武医師より2つの症例提示があり、会場からの質疑応答や意見交換が活発に行われました。また、NHO栃木医療センターの駒ヶ嶺医師により「くすりはリスク」と題した、多剤投与のリスクについての講演が行われました。各座長の円滑な進行の下、院内外問わず質問や意見が述べられ、有意義な会となりました。

※カンファランスとは会議や協議の場のことです。



### 弦楽四重奏の春コンサートを披露しました

平成28年3月9日に弦楽四重奏の春コンサートを開催しました。

今回は当院の中間楽平医師、松本典子臨床検査技師の他、外部の医療関係者2名が業務の合間を縫って練習に励んだ成果を緩和ケア病棟とエントランスホールで披露しました。「上を向いて歩こう」「川の流れるように」「世界の約束～人生のメリーゴーランド」など、計7曲が演奏され、盛況のうちにコンサートは幕を閉じました。

ご来場の方々からは多くの感謝の言葉を頂き、短い時間ではありましたが、生の弦楽器が奏でる美しい音色をお楽しみいただけたようです。

